【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【公表番号】特表2010-533777(P2010-533777A)
【公表日】平成22年10月28日(2010.10.28)
【年通号数】公開・登録公報2010-043
【出願番号】特願2010-517127(P2010-517127)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ 101/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　5/3477　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　85/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ 101/00
Ｃ０８Ｋ　5/3477
Ｃ０８Ｌ　85/02

【手続補正書】
【提出日】平成23年7月6日(2011.7.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
例えば、溶融加工性、機械的特性、熱安定性、実用温度、およびそれらに類するものを含む好ましい特性の組合せもまた有する耐火性エンジニアリングポリマー組成物の必要性と共に、ハロゲン化または金属含有難燃性添加物を含まない難燃性エンジニアリングプラスティック設計の提供の必要性がある。
この出願の発明に関連する先行技術文献情報としては、以下のものがある（国際出願日以降国際段階で引用された文献及び他国に国内移行した際に引用された文献を含む）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
【特許文献１】　米国特許第４９７０２４９号明細書
【特許文献２】　米国特許出願２００２／００４０９７８号明細書
【特許文献３】　米国特許出願２００３／０１４９１４５号明細書
【特許文献４】　米国特許出願２００８／０１１４１２７号明細書
【特許文献５】　米国特許出願２０１０／０２０４３５４号明細書
【特許文献６】　米国特許出願２０１１／００３９９８７号明細書
【特許文献７】　米国特許第５２１６１１３号明細書
【特許文献８】　米国特許第６８６１４９９号明細書
【特許文献９】　米国特許第４３３１６１４号明細書
【特許文献１０】　米国特許第２７１６１０１号明細書
【特許文献１１】　米国特許第３３２６８５２号明細書

【特許文献１２】　米国特許第４３２８１７４号明細書
【特許文献１３】　米国特許第４３７４９７１号明細書
【特許文献１４】　米国特許第４４１５７１９号明細書
【特許文献１５】　米国特許第５２１６１１３号明細書
【特許文献１６】　米国特許第５３３４６９２号明細書
【特許文献１７】　米国特許第４２２３１０４号明細書
【特許文献１８】　米国特許第４３２２５２０号明細書
【特許文献１９】　米国特許第４４０１８０２号明細書
【特許文献２０】　米国特許第４４８１３５０号明細書
【特許文献２１】　米国特許第４５０８８９０号明細書
【特許文献２２】　米国特許第４７６２９０５号明細書
【特許文献２３】　米国特許第４７１９２７９号明細書
【特許文献２４】　米国特許第４７８２１２３号明細書
【特許文献２５】　米国特許第４３３２９２１号明細書
【特許文献２６】　米国特許出願２００７／０１２９５１１号明細書
【特許文献２７】　米国特許出願２００２／０１５６１６０号明細書
【特許文献２８】　米国特許出願２００４／０１６７２８４号明細書
【特許文献２９】　米国特許第５８３７７６０号明細書
【特許文献３０】　米国特許第５２０２４３８号明細書
【非特許文献】
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
【非特許文献１】　ＡｄｄＣｏｎ'９５：Ｗｏｒｌｄｗｉｄｅ　Ａｄｄｉｔｉｖｅｓ　ａｎｄ　Ｐｏｌｙｍｅｒ　Ｍｏｄｉｆｉｅｒｓ　ｃｏｎｆｅｒｅｎｃｅ，Ｐａｐｅｒ　３，Ｐａｇｅ　６，Ａｐｒｉｌ　５－６，１９９５．
【発明の概要】
【課題を解決するための手段】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明の実施形態は、エンジニアリングプラスティック、メラミンまたはその誘導体または塩、および直鎖または分岐ポリホスホン酸エステルまたはコポリホスホン酸エステルまたはそれらの組合せを含むポリマー組成物を対象とするものである。いくつかの実施形態では、エンジニアリングプラスティックは全組成の重量の約１５％～９０％とすることができ、特定の実施形態ではエンジニアリングプラスティックは、限定するわけではないが、ポリカーボネート、ポリアクリル酸塩、ポリアクリロニトリル、ポリエステル、ポリアミド、ポリスチレン、ポリ尿素、ポリウレタン、ポリエポキシ、ポリ（アクリロニトリル－ブタジエン－スチレン）、ポリイミド、ポリアリレート、ポリ（アリレンエーテル）、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリフェニレン・サルファイド、ポリ（ビニルエステル）、ポリ塩化ビニル、ビスマレイミドポリマー、ポリアンヒドリド、液晶性ポリマー、セルロース高分子および共重合体、およびそれらの組合せを含むことができる。いくつかの実施形態では、エンジニアリングプラスティックは、ポリ（エチレンテレフタレート）、ポリ（ブチレンテレフタレート）、ポリ（ナフチレンテレフタレート）、またはそれら

の混合物または共重合体とすることができ、特別な実施形態では、エンジニアリングプラスティックは結晶性または半結晶性とすることができる。

いくつかの実施形態では、メラミンまたはその誘導体または塩はシアヌル酸塩とすることができ、他の実施形態では、メラミンまたはその誘導体または塩は全組成の重量の約５％～約２０％とすることができる。

いくつかの実施形態では、コポリホスホン酸エステルの直鎖または分岐ポリホスホン酸エステルは少なくとも約２０，０００の重量平均分子量（ｍｏｌｅｃｕｌａｒ　ｗｅｉｇｈｔ：Ｍｗ）を有することができ、特定の実施形態では、直鎖または分岐ポリホスホン酸エステルまたはそれらの組合せは全組成の重量の約５％～約４０％である。特別な実施形態では、直鎖または分岐ポリホスホン酸エステルまたはコポリホスホン酸エステルは以下の化学式の１若しくはそれ以上の構造ユニットを有する１若しくはそれ以上のブロックを含み、